

# 目次

## 概要

[前提条件か。移行があるように最小限の要件を確認して下さい](#)

[新しいハードウェアおよびソフトウェアの購入](#)

[ハードウェア](#)

[ソフトウェアとライセンス](#)

[サポート](#)

[Context-Aware Software ライセンスの登録](#)

[クライアント用 Context-Aware Engine の PAK](#)

[タグ用 Context-Aware Engine の PAK](#)

[ソフトウェアのダウンロード \( タグ用 Context-Aware Engine \)](#)

[AeroScout ソフトウェアのダウンロード](#)

[Cisco 2700 での履歴データのバックアップおよび移行](#)

[Cisco 2700 Location Appliance のバックアップと削除](#)

[MSE の設定](#)

[WCS 内の MSE の設定](#)

[タグ用 Context-Aware Engine の設定](#)

[よく寄せられる質問 \( FAQ \)](#)

[関連情報](#)

## 概要

このドキュメントでは、Cisco 2700 シリーズ Location Appliance を Cisco 3300 シリーズ Mobility Services Engine に移行するときに必要な手順について説明します。



## [前提条件か。移行があるように最小限の要件を確認して下さい](#)

Cisco 2700 シリーズ Location Appliance から Cisco 3300 シリーズ Mobility Services Engine に移行する場合は、正常に移行するために次のインフラストラクチャ要件に留意する必要があります:

- コントローラ (ワイヤレス LAN コントローラ (WLC)) サポートされているハードウェア : WISM、WLC4400、WS-C3750G、WLC2106、NME-AIR-WLC サポートされているソフトウェア : MSE では、バージョン 4.2.xxx (xxx>112) または 5.0.xxx (xxx<148) 以降のみをサポート
- アクセスポイント (AP) Cisco Aironet 1000 シリーズ アクセスポイントは、バージョン

4.2.xxx ( xxx>112 ) でだけサポートCisco AP11xx、12xx ( WLC : ソフトウェアバージョン 4.2.xxx ( xxx>112 ) または 5.0.xxx ( xxx>148 ) が必要 ) 注使用できるメッシュ AP サポートなし ( 屋内、屋外のいずれも ) 。

- Wireless Control System ( WCS ) サポートされているソフトウェア : バージョン 5.1.xxx 以降のみ

## 新しいハードウェアおよびソフトウェアの購入

Cisco 2700 シリーズ Location Appliance から Cisco 3300 シリーズ Mobility Services Engine ( MSE ) に移行する場合は、MSE ハードウェアおよび Context-Aware Software を適切なライセンスと ( Wi-Fi クライアントまたは Wi-Fi タグ用 ) を購入する必要があります。

発注のための詳細については、『[Cisco 3300 シリーズ Mobility Services Engine のライセンスおよび発注ガイド](#)』を参照してください。

### ハードウェア

現在の Cisco 3300 シリーズ MSE プラットフォームは MSE 3350 ( AIR-MSE-3350-K9 ) および MSE 3310 ( AIR-MSE-3310-K9 ) から構成されます。このハードウェアプラットフォームはそれぞれ最大 18,000 および 2,000 のデバイス ( Wi-Fi クライアントおよび Wi-Fi タグ ) を追跡できます。

3300 シリーズ MSE の詳細は <http://www.cisco.com/en/US/products/ps9742/index.html> を参照してください。

### ソフトウェアとライセンス

さまざまなシナリオに適合するために、Cisco Context-Aware Software のライセンス管理では、購入ライセンスの種類と量に柔軟性があります。ライセンスは追加式 ( MSE 3350 プラットフォームでは最大 18,000 デバイスを追跡、MSE 3310 では最大 2,000 デバイスを追跡 ) であるためシステムの拡張に対応できます。Pay-As-You-Scale ( ビジネスの成長に合わせた段階的な拡張 ) ライセンス モデルは、急速に拡張する必要があり、迅速に将来のニーズを満たす追加の容量を持つ必要がある企業向けに設計されています。ライセンスはクライアント ( クライアントトラッキング エンジンに両方のコンテキストわかっているエンジンに次の増分で利用できますか。クライアントがおよび不正な AP ) およびタグ ( エンジンをトラッキングするタグ ) のためのコンテキストわかっているエンジン含まれています。

追跡対象デバイス	認可オプション ( SKU か。s )	
	クライアント追跡	タグ追跡
1,000	AIR-CAS-1KC-K9	AIR-CAS-1KT-K9
3,000	AIR-CAS-3KC-K9	AIR-CAS-3KT-K9
6,000	AIR-CAS-6KC-K9	AIR-CAS-6KT-K9
12,000	AIR-CAS-12KC-K9	AIR-CAS-12KT-K9

注文したライセンスの製品認証キー ( PAK ) 証明書が紙媒体で配布されます。

注クライアント ライセンスには、不正 AP およびクライアントを特定するための機能も含まれて

います。

MSE 3350 プラットフォームでのライセンスの導入例：

追跡の要件	クライアント ライセンス	タグ ライセンス
2,500 クライアントの追跡	1 - AIR-CAS-3KC-K9	
2,500 タグの追跡		1 - AIR-CAS-3KT-K9
2,500 クライアントおよびタグの追跡	1 - AIR-CAS-3KC-K9	1 - AIR-CAS-3KT-K9
3,000 クライアントおよび 3,000 タグの追跡	1 - AIR-CAS-3KC-K9	1 - AIR-CAS-3KT-K9
5,000 タグの追跡		1 - AIR-CAS-6KT-K9
7,500 クライアントおよび 7,500 タグの追跡	1 - AIR-CAS-3KC-K9 1 - AIR-CAS-6KC-K9	1 - AIR-CAS-3KT-K9 1 - AIR-CAS-6KT-K9

Context-Aware Service についての詳細は、<http://www.cisco.com/en/US/netsol/ns788/index.html> を参照してください。

## サポート

### ハードウェアのサポート

3300 シリーズ Mobility Services Engine のサポートは、Cisco から提供されます。Cisco SmartNet プログラムでは、必要なハードウェア サポートのレベルに応じてさまざまなオプションを利用可能です。

### ソフトウェアサポート

#### クライアント追跡用 Context-Aware Engine

クライアント追跡用 Context-Aware Engine のサポートは、Cisco から提供されます。Cisco ソフトウェア アプリケーション サポート プラス アップグレード ( SASU ) では、Cisco Technical Assistance Center ( TAC ) から電話と Web、オンライン ツールに加え、ソフトウェア アプリケーションの不具合修正、メンテナンス、マイナー リリース、およびアップグレードによってテクニカル サポートが 24 時間提供されます。

#### タグ追跡用 Context-Aware Engine

タグ追跡用 Context-Aware Engine のサポートは、AeroScout から提供されます。

経験豊富な AeroScout のプロフェッショナル サービス チームは熟練したエンジニアによって構成されており、卓越したサポートを実現するために全力を尽くしています。

AeroScout Support Portal を使用して以下の作業が可能です。

- テクニカル サポートのケースを 24 時間年中無休で作成および追跡
- ドキュメント、サービス パック、および製品パッチをダウンロード
- ナレッジベースで最も一般的な技術的な問題に対するソリューションを検索。

AeroScout から個別のソフトウェア サポート契約を購入する必要があります。通常は、AeroScout の担当者からサポート契約を更新するためにお客様に連絡があります。また、サポート契約は次の方法で購入できます。

- AS VAR でもある場合、お客様は、Cisco VAR からサポートを購入できます。
- お客様は [renewals@aeroscout.com](mailto:renewals@aeroscout.com) に電子メールを送信できます。サポート契約を更新するために AeroScout の担当者から直接連絡があります。

## Context-Aware Software ライセンスの登録

ライセンス登録プロセスはクライアント用 Context-Aware Engine とタグ用 Context-Aware Engine で別々です。注文した各ライセンス タイプに基づいて、次に説明する手順を実行してください。

### クライアント用 Context-Aware Engine の PAK

クライアント用 Context-Aware Engine のライセンス執行はまだイネーブルにされていません。紙媒体で受け取った PAK 証明書を周知の安全な場所に保管します。ライセンス執行が将来イネーブルにされると、その時点でアプリケーションからライセンス ファイルのプロンプトが出され、ここで説明されている登録プロセスを実施するよう要求されることになります。

1. Cisco ライセンス Web サイトにログインします。  
<https://tools.cisco.com/SWIFT/Licensing/PrivateRegistrationServlet> ( [登録ユーザ専用](#) )
2. クライアント用の PAK を登録する Web サイトの手順を実行します。次の情報が必要です。顧客の電子メール アドレス MSE Unique Device Identifier ( UDI ) クライアント用の PAK 証明書

注ソフトウェア バージョン 5.1 および 5.2 には自動認証ベースのライセンスがあります。ソフトウェア バージョン 5.1 および 5.2 を使用する場合、上記のステップは不要です。

登録プロセスを完了すると、クライアント用 Cisco Context-Aware Engine のライセンス ファイルが電子メールで送付されます。ライセンス ファイルを添付した電子メールが [licensing@cisco.com](mailto:licensing@cisco.com) から登録時に記入した電子メール アドレスに送信されます。コンフィギュレーション ガイドの説明に従って、MSE にクライアント用 Context-Aware Software ライセンス ファイルをインストールします。

### タグ用 Context-Aware Engine の PAK

AeroScout エンジンのライセンスを受け取るには、AeroScout のサポート Web サイト ( [support.aeroscout.com](http://support.aeroscout.com) ) に移動し、次の手順を実行する必要があります。

1. アカウントを作成します ( まだない場合 )。
2. 新しいアカウント クレデンシャルが自動的に作成され、ユーザ名とパスワードの電子メールが、指定した電子メール アドレスに送信されます。
3. 提示されたリンクを使用して、AeroScout Support Portal にログインし、[Register Products

Purchased from the Cisco] リンクに移動します。

4. 製品のシリアル番号 ( この場合、PAK# ) を使用して製品を登録します。
5. 新しいライセンスと、ソフトウェアのダウンロード場所の説明が、PAK の検証後に送信されます。

## ソフトウェアのダウンロード ( タグ用 Context-Aware Engine )

Mobility Services Engine ( MSE 3300 シリーズ ) は、5.1 ソフトウェア リリースを搭載したクライアント用 Context-Aware Engine ( クライアント追跡ソフトウェア ) に付随してプリロードされています。ソフトウェア リリース 5.2 以降では、MSE は、クライアント用 Context-Aware Engine およびタグ用 Context-Aware Engine に付随してプリロードされます。

タグ用 Context-Aware Engine を管理するには、AeroScout からのシステム マネージャ ソフトウェアが必要です。このソフトウェアは、AeroScout から直接ダウンロードする必要があります。

Cisco ソフトウェア リリースバージョン	AeroScout からダウンロードするソフトウェア	
	タグ用 Context-Aware Engine	システム マネージャ
5.1	○	○
5.2	なし	○

## AeroScout ソフトウェアのダウンロード

登録認証の電子メールにある URL を使用して、AeroScout のソフトウェアをダウンロードするための AeroScout サポート サイトにログインします。ソフトウェアのダウンロード期限は、登録認証日から 30 日間になります ( カウントの開始日は、承認の電子メールが送信された日です )。

注30 日経過後は、ソフトウェアをダウンロードできず、このサイトから提供されているオンライン マニュアルにアクセスできません。

## Cisco 2700 での履歴データのバックアップおよび移行

### Cisco 2700 Location Appliance のバックアップと削除

現在の 27xx Location Appliance のロケーション データベースは、Cisco WCS のバックアップ/復元機能を使用して、新しい Cisco MSE に移動できます。

1. データベース ファイルが WCS のユーザが指定したディレクトリにバックアップされます。  
[Mobility] > [Mobility Service Engines] に移動します。
2. これを選択するには [Cisco 2700] をクリックします。
3. ウィンドウの左側のメニューから [Maintenance] > [Backup] に移動します。データベースがバックアップされたら、古い 2700 シリーズのロケーション アプライアンスを WCS から削除する必要があります。

## MSE の設定

デフォルトで、MSE-3300 シリーズには、MSE OS およびクライアント用 Context-Aware Engine がインストールされています。初期起動すると、スタートアップスクリプト ( setup.sh ) によって初期設定手順が示されます。このスクリプトは、次のパラメータを設定するために使用する必要があります ( 初期設定または後日の変更 )。

- ホスト名またはドメイン 名称の変更
- MSE の FE/GE のポートの IP アドレスまたはサブネット
- デュアル ホーミング
- コンソールまたは SSH のアクセス設定
- ルート パスワードの変更
- WCS ユーザパスワードの変更

Linux に慣れているユーザは、他の方法を使用してこれらのパラメータの一部またはすべてを変更しようとする可能性があります。他の方法を使用してこれらのパラメータを設定または変更すると、MSE 内の一部の関連ファイルが変更されないままになることがあるという問題があり、その結果、運用上の問題が発生する可能性があります。setup.sh スクリプトは、該当するファイルすべてに必要な設定変更を行うよう調整されています。

クライアント用 Context-Aware Engine は、デフォルトで MSE に付属します。ただし、タグ用 Context-Aware Engine ( AeroScout エンジン ) は手動でインストールする必要がある個別のエンジンです。AeS エンジンを購入した場合は、AeroScout からこのソフトウェアを直接ダウンロードします。

1. WCS は、MSE にタグ用 Context-Aware Engine を転送するために使用されます。[Mobility] > [Mobility Service Engines] に移動します。
2. タグ用 Context-Aware Engine をインストールするためのターゲット MSE を選択した後、次のメニュー ステップを実行します ( WCS の画面の左側にあるメニュー )。[Partner Engine] > [Download Software] に移動します。WCS ソフトウェアのダウンロード プロセスでは、MSE の次のディレクトリにダウンロード ファイルを配置します。//opt/installers
3. イメージが MSE にアップロードされたら、このコマンドを使用してソフトウェアをインストールします ( Linux コマンドでは、大文字と小文字が区別されることに注意 )。[root@mse ~]#rpm -Uvh <aeroscout-engine rpm file>注タグ用 Context-Aware Engine を個別にダウンロードする上記の手順は、ソフトウェア リリース 5.1 を使用する場合だけ必要です。ソフトウェア リリース 5.2 以降では、両方の Context-Aware Engine にクライアント用 Context-Aware Engine とタグ用 Context-Aware Engine の両方がバンドルされています。
4. RPM インストール プロセスの完了後に、このコマンドを入力して AeS エンジンを開始します。[root@mse ~]#service aeroscout-engine-wd startAeroScout エンジンのウォッチドッグ タイマーに関連する他の便利なコマンドは次のとおりです。ステータス コマンド : **service aeroscout-engine-wd status**停止コマンド : **service aeroscout-engine-wd stop**全般エンジンステータス コマンド : **getserverinfo**
5. WCS 上で [Mobility] > [Mobility Service Engines] に移動して、AeroScout エンジンが実行中であることを確認します。
6. MSE をクリックします。WCS 画面の左側のメニューを使用して移動し、[Partner Engine] > [Status] に移動します。

## WCS 内の MSE の設定



Cisco MSE を WCS に追加する必要があります。

1. WCS の [Mobility] タブに移動します。 [Mobility] > [Mobility Service Engines] > [Add Mobility Service Engine]。
2. MSE が WCS に追加されたら、2710 から MSE にデータベース ( ステップ 1 でバックアップ ) を復元します。 ウィンドウの左側のメニューを使用して移動し、 [Maintenance] > [Restore] に移動します。
3. 既存のネットワーク設計および WLC と MSE を同期します。 [Mobility] > [Synchronize Servers] に移動します。 クライアント用 Context-Aware Engine は、デフォルトで MSE に付属します。 ただし、タグ用 Context-Aware Engine ( AeroScout エンジン ) は手動でインストールする必要がある個別のエンジンです。 タグ用 Context-Aware Engine を購入した場合は、 AeroScout からこのソフトウェアを直接ダウンロードします。

## タグ用 Context-Aware Engine の設定

システムをセットアップするには、次の手順を行います。

1. Cisco WCS でのシステム セットアップ次に、例を示します。 マップをロードし、調整します。 マップ上のデバイスを設置し、設定します。 詳細については、『Context-Aware Software コンフィギュレーション ガイド』を参照してください。
2. Cisco MSE でのシステム セットアップ詳細については、『Context-Aware Software コンフィギュレーション ガイド』を参照してください。
3. システム マネージャでのシステム設定システム パラメータを設定します。 チョークポイントと TDOA レシーバ IP 設定を設定します。 TDOA レシーバとチョークポイントのファームウェアバージョンを確認します ( 必要に応じてアップデート )。 必要に応じた追加のシステム設定 ( セル、同期グループ、マスク、参照タグ ) デバイスの接続とステータスを確認します。
4. システム機能の確認タグを探し始めます。
5. システム テストシステム同期を確認します ( TDOA モードのみ )。 参照ポイントをセットアップし、サイトでタグを適宜配置します ( ロケーション向上のためのみ )。 セッションを記録し、それを分析します。 チョークポイントを 1 つずつテストします。 システムを適宜調整します ( 随時 )。 デバイスの配置、アンテナの向き、チェックポイントの範囲などです。
6. イベント マネージャのセットアップ

Context Aware Service が MSE で動作することを確認するために MSE 上で `getserverinfo` コマンドを使用します。

## よく寄せられる質問 ( FAQ )

Q. MSE を起動するとき、MSE サーバが実行されていることを確認するにはどうしますか。

A. 出荷時設定のままの新しい MSE 上の MSE サービスはデフォルトでは開始されません。 サービスを開始するには次のコマンドを使用します。

```
root@mse ~]#/etc/init.d/msed start
```

ユーザは次のコマンドを使用して MSE デーモンの自動起動をイネーブルにできます。

```
[root@mse ~]#chkconfig --add msed
```

Q. MSE とコントローラ間のクロックの時間設定に対するベスト プラクティスは何ですか。

A. ワイヤレス コントローラのクロックの時間設定は、MSE のクロックと同じか先行している必要があります。

Q. 顧客は 3000 タグがクライアント ライセンスがある場合、3001?s クライアントに何が起こりますか。

A. 3001 個目のタグまたはクライアントは追跡されません。システムのトラッキングされたクライアント/タグ移動の 1 つが 3000 ライセンス制限まで (たとえば、オフになる gets)、新しいタグ/クライアント トラッキングされればか。または MSE でインストールされるライセンスのキャパシティまで。

Q. お客様が 2700 から MSE に移行すると、2700 ベースの調整モデルはどうなりますか。調整モデルは再利用されますか。

A. 2700 ロケーション サーバからの調整モデルは、クライアントの追跡用に MSE で再利用できます。タグの追跡では、2700 ロケーション サーバからの調整を使用できないパートナー エンジンを使用します。

Q. 単一の Cisco MSE-3350 に複数の Cisco 2700 Location Appliance から移行することは可能ですか。

A. 可能です。1 警告は/復元だけ 2710?s の 1 からの MSE ヘデータベース バックアップするためにできることことです。後続のデータベースを移行すると、前のバックアップ/復元が上書きされます。

Q. クライアントやタグのライセンスを後日追加することはできますか。

A. はい。

Q. 2700 から MSE に移行するときロケーション最適化監視モード (LOMM) はサポートされていますか。

A. はい。LOMM は、MSE でのクライアントとタグの追跡の両方でサポートされています。

Q. 2700 から MSE に既存の励振器の設定を移動するにはどうしますか。

A. この操作については AeroScout のテクニカル サポートに連絡してください。

Q. 2700 から MSE に移行するとき、どのデータが維持されますか。

A. ネットワーク設計の一部であるすべての情報は移行プロセス中に維持されます。

Q. ロケーション忠実度は 2700 から MSE に移動した場合に向上しますか。

A. MSE でのクライアント追跡では 2700 と同じエンジンを使用するため、ロケーション忠実度はほぼ同じはずですが。タグの追跡はパートナー エンジンに基づいているため、ロケーション忠実度は同程度である場合も、同程度でない場合もあります。

Q. MSE で遅延は改善されますか。

A. クライアントおよびタグの追跡の遅延は MSE では同等であるか優れます。



Q. サポートを受ける場合、タグ用 Context-Aware Engine のサポートについて問い合わせ先はどこですか。

A. タグ用 Context-Aware Engine のサポートについては AeroScout に連絡してください。

Q. MSE のオペレーティング システムは強化されていますか。

A. はい。

Q. MSE でのデフォルト ルート パスワードは何ですか。

A. デフォルト ルートパスワードはありますか。パスワードか。

Q. レールとリージョンは、クライアントおよびタグに対して MSE で動作しますか。

A. レールとリージョンはクライアント追跡に対してだけ MSE で動作します。タグの追跡にが、AeroScout システム マネージャでセルおよびマスクの機能を使用する必要があります。

## [関連情報](#)

- [Cisco 3300 シリーズ モビリティ サービス エンジン](#)
- [Context-Aware](#)
- [AeroScout](#)
- [MSE 3300 シリーズ データ シート](#)
- [Context-Aware データ シート](#)
- [Cisco 3300 Mobility Services Engine](#)
- [シスコ モビリティ サービス エンジン : Context Aware モビリティ ソリューション導入ガイド](#)
- [Cisco 3300 シリーズ Mobility Services Engine スタートアップ ガイド](#)
- [Cisco 3300 シリーズ Mobility Services Engine コンフィギュレーション ガイド、リリース 5.1](#)
- [テクニカルサポートとドキュメント - Cisco Systems](#)